

2023年11月

教会学校校長及び教師
教会・伝道所牧師及び役員
キリスト教関係施設及び学校 皆様へ

第42 総会期
日本基督教団教育委員会
委員長 横山ゆずり

2023年度 全国教会学校クリスマス献金のお願い

クリスマスを迎えるにあたり、主の恵みのもと、宣教の業に励んでおられることと思います。わたしたちは「みんなで生きよう」との主題のもと、世界と日本で子どもたちと共に生き、喜びと苦しみと一緒にしようと、多くの子どもたちの協力を得てクリスマス献金をささげてきました。今年は以下のような計画を立てました。ご協力をお願いいたします。

<募金計画>

主 題：「みんなで生きよう」
ウクライナのおともだちと共に
アイヌのおともだちと共に
東日本大震災で被災したおともだちと共に
全国の教会の子どもたちと共に（「教会学校応援セット」）

献 金 先：特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン
北海教区アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会
東北教区放射能問題支援対策室いすみ
教会・伝道所の教育活動支援（「教会学校応援セット」として）

～上記のほか、緊急に必要なところに献金の一部をお送りする場合があります～

献金目標：800万円

期 間：2023年12月1日～2024年3月31日

送 金 先：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31
日本基督教団教育委員会 クリスマス献金係 振替「00150-8-27638」
電話：03-3202-0544 ファックス：03-3207-3918 Email：kyouiku-c@ucc.j.org

※子ども向け広報誌「みんなで生きよう」をご活用ください。さらに部数が必要な場合はご請求ください。

※「みんなで生きよう」の送付部数が多い場合は、お手数ですが、電話、ファックス、メールにてご連絡下さい。次年度より部数を減らしてお送りします。

※この趣意書はコピーしてご利用いただけます。献金の説明や教師会などで趣意書が用いられることを期待しています。

2023年度 クリスマス　主の御名を賛美いたします。日本基督教団教育委員会では、クリスマスの時期を、喜びを分かつ恵みの時ととらえて、皆さまに献金の呼びかけをさせていただいています。　～今年は次の3件に献金を ungeたくご案内をいたします～

ウクライナのおともだちと共に

1. 特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

2022年2月24日、独立国であるウクライナにロシア軍による侵攻が始まりました。1年半以上経過した現在もロシアによるウクライナ侵攻はなお続いている、長期化の様相を示しています。

戦争により、兵士ばかりでなく、多くの市民、そして子どもたちの命が危険にさらされ、たくさんの命が奪われました。心の傷も深刻です。2023年6月末時点で、民間人9,177人が死亡（内子ども500人以上）、負傷者15,993人（国連発表）。実際の死者数はさらに多いとしています。

今年もウクライナの子どもたちを覚えて献金をおささげしたいと思います。献金先は、昨年と同じ、認定NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパンです。（理事長・銀座教会の高橋潤牧師）

＜現在の主な支援活動＞　～越冬支援・食糧支援・心のケアなど～

- ・食糧 医薬品 衛生用品および、毛布やジャケットなど冬を越すための物資の配布
- ・子どもが安心して過ごせる居場所づくりや、教育支援、レクリエーションによる心のケア
- ・それぞれのニーズに合わせた活用ができる現金の支給
- ・トラウマを抱えた子どもや親への対処ができるよう、先生向けの研修・認定プログラムの実施

以下は＜チャイルド・ファンド・ジャパンより～献金に対するお礼のお手紙（抜粋）～＞です

この度はウクライナ緊急支援に多額のご寄付をお送り下さり、誠にありがとうございます。

チャイルド・ファンドは、ウクライナ国内・隣国モルドバで、避難する子どもたちと家族を守るために活動を続けています。チャイルド・ファンドのメンバー団体であるチャイルド・ファンド・ドイツとWe World（イタリア）が中心となり、食糧や医薬品などの生活必需品を提供するとともに、不安と恐怖に苦しめられている子どもたちに対し、オンラインや対面での心のケアなども行っています。人道危機の発生から1年半近くが経ちましたが、いまだ先行きは不透明です。ダムの決壊による洪水被害も深刻です。引き続きお支えくださいますようお願い申し上げます。

アイヌのおともだちと共に

2. 北海教区アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会を覚えて

北海道は先住民族であるアイヌ民族の人たちが昔から自然と共に生きてきた土地で、アイヌの言葉でアイヌ・モシリ「人間の土地」といいます。けれど日本が近代国家として歩むなかで、アイヌ民族の人たちはそれまで住んでいた土地での生活、文化や言葉も奪われてきました。そうした過去の歴史を反省するなかから、1988年に《アイヌ奨学金キリスト教協力会》が設立され、アイヌ民族の修学・人材養成・国際交流に対する支援を行ってきました。この奨学金制度で、今年は大学生3名、大学院生1名が学んでいます。この数年資金が底をついたので、奨学金希望者には入学祝金として、1年のみ奨学金をお送りしていました。しかし皆様のご支援のおかげで、今年より卒業まで支援できるように戻りました。大学生3人のうち、お2人は札幌大学ウレシパクラブにてアイヌの学びを続け、大学院生はアイヌの権利回復のために国際的な学びを続けています。そのほか、アイヌの子どもたちの学習教室《とかちエテケカンパの会》の支援や、先住民族との文化交流にも資金が用いられています。1996年には「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」として《北海教区アイヌ民族情報センター》が開設されました。アイヌの人々の生活はいまだに苦しい状況に置かれており進学率も低いままです。どうか、そのような環境の中で努力し、進学、卒業へと進んでおられる子どもたちを覚えお祈りください。

東日本大震災で被災したおともだちと共に

3. 東北教区放射能問題支援対策室いづみを覚えて

2011年3月11日の東日本大震災より12年が経ちました。東京電力福島第一原子力発電所事故により、今まで自然豊かに暮らしていた土地、山、海は放射能により汚染されてしまいました。

放射能による健康影響が最も大きいのは子どもたちです。2013年10月、そうした子どもたちとご家族の不安を少しでも取り除こうと、医師による健康相談や甲状腺エコー検査、保養プログラムなどを行うため、《東北教区放射能問題支援対策室いづみ》は発足しました。今年で10年を迎えます。～東北教区放射能問題支援対策室いづみの具体的な活動は以下の通りです～

- ①甲状腺検査や健康相談
- ②外でのびのび遊んだり、ゆっくりできる親子保養プログラム
- ③放射能で困っている人たちを支え、つなげるコミュニティーづくり（映画会・講演会・傾聴）

今年も8月に「心と体をリラックス！！第16回親子短期保養プログラムin北海道」を実施し、20名の親子が参加しました。放射能と向き合い続ける日常から離れ、土や芝生の上を走り回り、ダンゴ虫を観察し、自然と触れ合いながら、のびのびと過ごすことができました。

また、近年は「子ども被ばく裁判」や「311子ども甲状腺がん裁判」などの支援も行っています。

原発当時の原告の年齢は6歳から16歳。甲状腺がんのため7人全員が手術を受け、そのうち4人が再発しています。原告は現在10代～20代の青年ですが、進学や就職など人生の大切な時期に手術や治療を経験し、痛みや苦しさに加え、将来の不安を抱えながら訴訟に踏み切りました。支援活動は長期にわたって続ける必要があります。今年もいづみの働きを覚えてお祈り下さい。

*それぞれの団体の活動は、各団体のHP(ホームページ)でもご確認いただけます。

どうぞ『みんなで生きよう』誌と併せて、教会学校の子どもたち、幼稚園・保育園・学校の子どもたちにご紹介ください、またそれぞれの団体の働きのためにお祈りください。

4. 教会学校のおともだちと共に：「教会学校応援セット」

皆さまから献げられた献金は、上記3件のほか、日本基督教団教育委員会が実施している「教会学校応援セット」贈呈のためにも用いられます。教会学校（子どもの教会）を再開したい、活性化させたいという祈りに少しでも寄り添うことができるようになると、「聖書・こどもさんびか」、「聖書物語絵本のセット」、「ヒムプレーヤー」を贈ってきました。

教会学校に集う子どもたちの祈りが、豊かに聽かれるクリスマスとなりますよう祈っています。

【「教会学校応援セット」応募に関して】 *締め切りは 2024年1月31日

応募を希望する教会・伝道所は教師会または役員会でご検討いただき、教団教育委員会にお申し込みください。「教会学校応援セット申込書」は所定の用紙がありますので、委員会までお問い合わせください（電話：03-3202-0544）。

「申込書」に必要事項をご記入のうえ、ファックス（03-3207-3918）またはメール（Email：kyouiku-c@uccj.org）でお申し込み下さい。応援セットをお届け後に委員会より様子をお伺いしますので、連絡先は詳しくご記入ください。締め切りは 2024年1月31日です。（厳守）

※過去に「教会学校応援セット」の贈呈を受けられた教会・伝道所は3年間応募をご遠慮下さい。

※申込書に記載された《活動予定》・教会規模等を考慮のうえ、2月開催の教育委員会にて選定および決定いたします。結果はお電話でご連絡いたします。

※「教会学校応援セット」贈呈後に簡単な「報告」を提出していただきます（締め切り7月31日）。

コース内容

(A) 聖書10冊、こどもさんびか10冊、「伴奏譜」1冊 (3教会)

*「聖書」は口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳の中からお選び下さい。

*「こどもさんびか」は「1987年度発行」か「改訂版こどもさんびか」をお選び下さい。

(B) 聖書物語絵本と紙芝居、教材とカードのセット (3教会)

(C) ヒムプレーヤー 1台 (2教会)

☆ 昨年度(2022年度)クリスマス献金 感謝報告 ☆彡

2022年度のクリスマスも「みんなで生きよう」という主題のもとで献金をお願いいたしました。日本全国各地より、教会学校ばかりではなく、キリスト教学校、幼稚施設、そして個人、団体から、心のこもった貴い献金をお寄せいただきました。大変ありがとうございました。
教育委員会で検討した結果、献金の配分については、以下のようにさせていただきました。

献 金 総 額 : 6,741,216 円 (合計 436 件 2022.4.1~2023.3.31)

送り先・金額 :

<ウクライナのおともだちと共に / アジア学院で学んでいる外国人びとと共に>

① 認定NPO法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 200万円

② 学校法人 アジア学院（アジア農村指導者養成専門学校）*栃木県那須塩原市 100万円

<アイヌのおともだちと共に>

③ 北海教区アイヌ民族情報センター・アイヌ奨学金キリスト教協力会 100万円

<東日本大震災で被災したおともだちと共に>

④ 東北教区放射能問題支援対策室いづみ《甲状腺検査・親子保養プログラム等》 150万円

「教会学校応援セット」として(3教会) 286,725 円

A コース (聖書・こどもさんぴか) : 中野桃園教会

B コース (絵本・紙芝居) : 目黒原町教会 C コース (ヒムプレーヤー) : 佐伯教会

*以上の4件にクリスマス献金を送金いたしました。

また3つの教会に「教会学校応援セット」を送りました。

残金は広報費等に用いました。

～教会学校応援セットを送った 目黒原町教会からお便りが届きました～

楽しいひと時を 目黒原町教会牧師 大塚啓子

目黒原町教会の第一礼拝（教会学校）には、2歳から14歳までの生徒と保護者の方々が参加されています。教会学校教師が1名のため、分級を行うことができず、礼拝後にみんなで活動する時間をもっています。

「教会学校応援セット」が来る前は、讃美歌をうたい、ベルの演奏をしました。

絵本と紙芝居が届いてからは、読み聞かせを行いました。みんなが真剣に聞いていました。また家庭でも読んでもらおうと貸し出しました。

昨年の夏から毎週参加されているご家族は、絵で見ることによって物語を新鮮に感じた、聖書の世界をより深く知ることができた、と感想を述べられました。

絵本や教材を使いながら、みんなで聖書の世界に触れ、楽しいひと時をもつことができれば

と願っています。ありがとうございました。

《聖書物語「よきサマリヤ人」の絵本と》

